

ちば河川交流会 令和4年度活動報告と令和5年度活動計画

令和5年3月末日

1. ちば河川交流会の概要

- (1) 設 立 平成11年3月6日
- (2) 世 話 人 代表世話人 高橋 彌 (元千葉工業大学教授)
世話人 檜村 光雄、鳥居 雪子、古川 厳水、荒木 博美
- (3) 会 員 数 131名 (令和4年現在)
- (4) 設立目的 ちば河川交流会は、多様な分野で活動し、千葉県内の河川や水辺のことについて関心をもっている者が集い、様々な話題を取り上げ、意見を交換するなど交流を拓げるとともに知識を深め、川の文化の発展に貢献していくことを目的に設立されました。
- (5) 主な事業 ①河川に係る個人相互の意見交換、交流活動
②河川に関する情報の提供及び知識の普及活動
③その他、会の目的に沿った活動
- (6) サークル活動 ①「千葉県の川・水に関わる土木遺産調査研究グループ会」
②「ちばの川を訪ねる会」
③「千葉県内の湧水・自噴井戸の調査研究会」
- (7) ホームページ <http://www.chibariver.net/>

2. 令和4年度活動報告

(1) “エコメッセ 2022 in ちば” について

令和4年10月22日にオンライン開催、23日に会場開催されましたが、新型コロナウイルスの影響また情報収集の遅れ、出席者の確保等の関係から、参加を見送りました。

(2) 「ちばの川を訪ねる会」の活動

「ちばの川を訪ねる会」は、これまで「ちば河川交流会」のサークル活動として、県内の河川やその流域あるいは海岸を訪ねて「水辺」を通して人と自然との関わりについて、また、地域の風土形成に関わる土木遺産について調査・研究を進め、これらをまとめて10冊の小冊子にしてきました。

そして、上記の小冊子を基に、見やすく、全体が把握しやすいように「ちばの川訪ねある記」として1冊に編集しました。皆さんが手に取って現地に出かける際のガイドとなれば幸いです。

さらに、平成 30 年度からは、新たな活動として、各河川ごとに、その川の自然環境、既往災害、改修の歴史や流域の文化・風土などに関する文献資料を収集整理し取りまとめ、当該河川の姿が概観できるような「河川誌」を作成していく活動方針としました。

2020 年は千葉県にとって戦後最大の被害をもたらした「45 災」（昭和 45 年 7 月 1 日に千葉県南部を襲った集中豪雨による災害）から 50 年目の節目の年を迎えることから、特に被害の大きかった上総丘陵河川を代表する小櫃川を「河川誌」の対象河川として進め、小冊子「被災から半世紀 45 災を振り返って ～記録から見る小櫃川の水害～」として取りまとめました。一昨年は、引き続き小櫃川に関して、前年から収集・整理してきた資料に新たな調査により得られた知見を基に、水利用の面から川と人との関係及び自然景観などを見どころとして紹介し、皆さんに関心を持っていただくきっかけになればとの思いから、小冊子「小櫃川を訪ねて 水文化編」として、まとめました。令和 3 年度は、引き続き小櫃川に関して、小櫃川の成り立ち、地域の歴史、交通、豊かな自然環境、さらには流域に関連する話題を紹介した「小櫃川を訪ねて 歴史・自然編」を作成しました。既刊の「被災から半世紀 45 災を振り返って ～記録から見る小櫃川の水害～」及び「小櫃川を訪ねて 水文化編」と併せて小櫃川 3 部作としてまとめることができました。

令和 4 年度は、都市河川に注目し、総合治水対策を進めている真間川を対象河川として「真間川を訪ねて 上巻（治水編）」として、成り立ちから水害の歴史、治水の歴史を取りまとめました。

（3）「NPO 法人 利根川流域交流会」への参加

平成 22 年 10 月に開催した「川と沼ですてきな！体験を提案する全国大会 in ちば」で、坂東太郎（利根川）・筑紫次郎（筑後川）・四国三郎（吉野川）の三大河川の兄弟交流の必要性が確認されたことを受けて、利根川流域の連携を促進する狙いから、埼玉、群馬、栃木等の流域関連の団体が参加して「利根川流域交流会」が平成 23 年 2 月に正式に結成され、当交流会もこれに参加しています。当交流会会員の虫明功臣東大名誉教授がこの会の顧問に就任されています。

この「利根川流域交流会」では、令和 4 年度に以下のような活動が行われ、当交流会の会員が参加しました。

○上下流連携事業

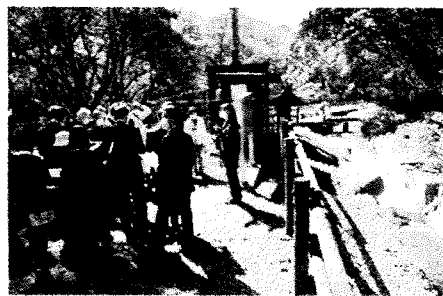
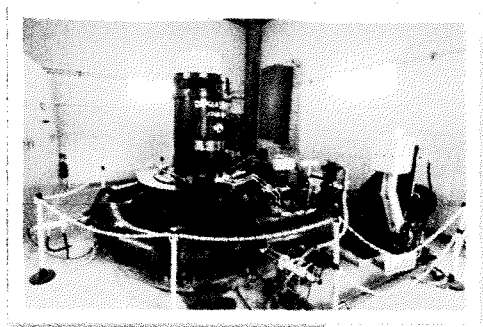
① 〈利根川に学ぶ〉

「利根川流域の水力発電パワーを知る」セミナーへの参加。

日時：令和 4 年 10 月 21 日

会場：現地見学 まえばし赤城山小水力発電所

セミナー 前橋けやきカンファレンス



現地見学会



セミナー会場

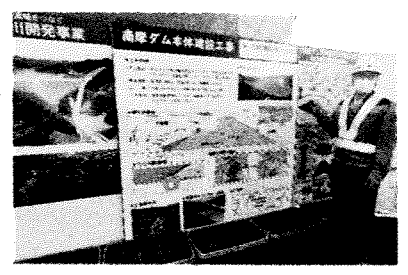
② シンポジウム「どこまで役立つ利根川流域の水力発電—今後の発展の可能性—」への参加。

日程：令和4年11月18～19日

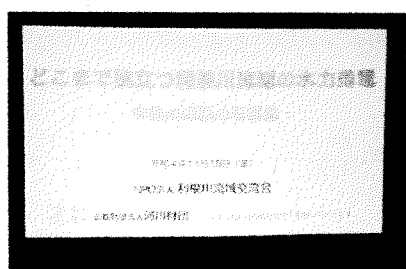
現地見学 18日 南摩ダム

シンポジウム 18日 ニューサンピア栃木

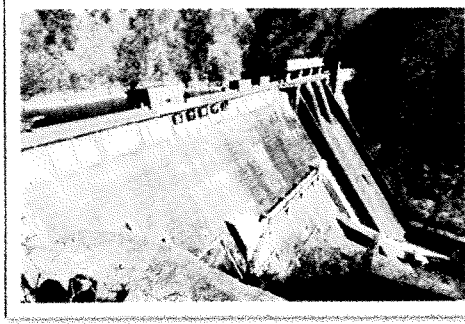
見学会 19日 川治ダム、五十里ダム、湯西川ダム



現地見学会



シンポジウム



見 学 会

(4) ミズベリング「水辺で乾杯」

令和4年7月7日に市川市の真間川で予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で中止とさせていただきました。

(5) 令和4年度総会

令和5年4月に予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で中止とさせていただきました。(郵送にて関係資料を会員に送付)

(6) 日本河川協会からの助成金の活用

令和4年度の活動に対して日本河川協会から 104,000 円の助成金を受領しました。この助成金は、会員相互の意思疎通を図る上で重要な総会に関わる経費として活用させていただきました。

3. 令和5年度活動計画

(1) 「エコメッセ 2023 in ちば」への参加

10月14日(土)、15日(日)、会場：オンライン&幕張メッセ
としています。詳細内容の発表後に参加の可否を判断したいと思います。

(2) 各種見学会等の開催等

河川誌真間川関連の資料を基に見学会の開催を予定しています。

(3) 河川誌(「真間川 下巻」を予定)に係る資料収集、整理・とりまとめ

(4) 「利根川流域交流会」等の関連団体・組織等との交流

(5) ミズベリング「水辺で乾杯」での交流

市川市の真間川を予定しています。

(6) 令和5年度総会の開催(令和6年4月頃を予定)